

Le journal Tara

こどもタラ新聞 junior



N°2

対象年齢：6-12歳



© C. Roussey - Fonds Tara

タラ号海洋プロジェクトのチームが航海にでて1年が経ちました。一緒に冒険にでかけましょう!

— タラ号お絵かきコンテスト2010 結果発表! —

www.agnesb.co.jp/tara/

agnes b.

ごうかいよう たら号海洋プロジェクトは何のため？

3年間に渡り、たら号は新しい生物を発見するために世界中を航海します。たら号はすでに良く知られている海の哺乳類や魚を研究するよりも、プランクトンといわれる目に見えない、まだ良く知られていない生物の世界を調査しています。

こんにちは！僕は
プランクトンのレオン。



僕は海の中に住んでいて、10億よりも
もっと多くの仲間たちがいるよ！
海水1滴の中にも、ほら。



水面下には、何十億もの、顕微鏡
で見えないサイズのとても沢山の
種類の生物が居ます。これらのプ
ランクトンは、地上の生物たちにと
ても、とても重要です。なぜなら、
私たちが呼吸している酸素の50%
を作り出し、私たちが排出する炭酸
ガスのうち70%を吸収しているから
です。プランクトンは地球上に初めて
出現した生物です。つまり、私たち
の祖先だと言えます！

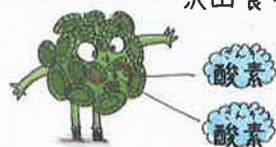
今日、プランクトンのお陰で、私
たちは呼吸することができ、地球の
気候のバランスをとっています。これ
らの宇宙人のように不思議な小さな
生物たちは、温暖化する気候に敏感
です。プランクトンを守るためにも、
それらを研究することが今すぐ必要
なのです。

これはたら号の任務なのです。



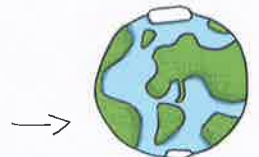
僕は生きて
いる間に

CO₂ (二酸化炭素)を
沢山食べるんだ...

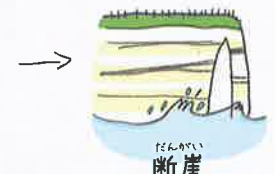


そして、沢山の酸素を
吐き出す...

死んだ後は、海の
底に重なっていく...

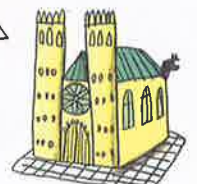


大陸



断崖

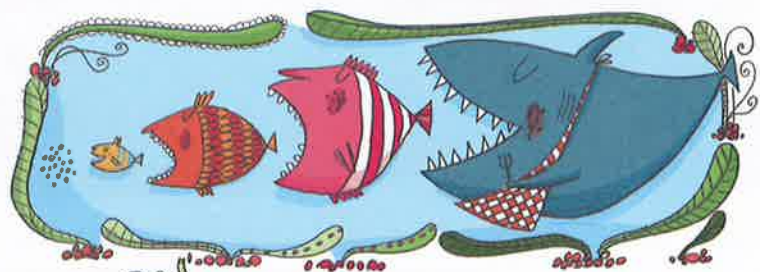
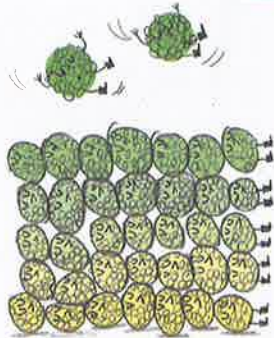
堆積物の層や



ノートルダム寺院に
使われているような
石灰岩



石油を作る



そして、僕たちは海中の食物連鎖の
元でもあるんだよ！

7 カ国の

22

の化学実験室や
研究所



ねん
3年におよぶ
せかい たび
世界の旅

タラの寄港地
 2010年の夏、タラ号は南アフリカのケープタウンに寄港。2011年3月にはチリの沖を航海。
 2011年9月、ニュージーランドのオークランドに寄港。2012年3月には日本に寄港。北西の航路を通って、2012年9月にアメリカ海岸に沿って航海。そして、タラ号は2012年の秋にフランスに戻る予定です。

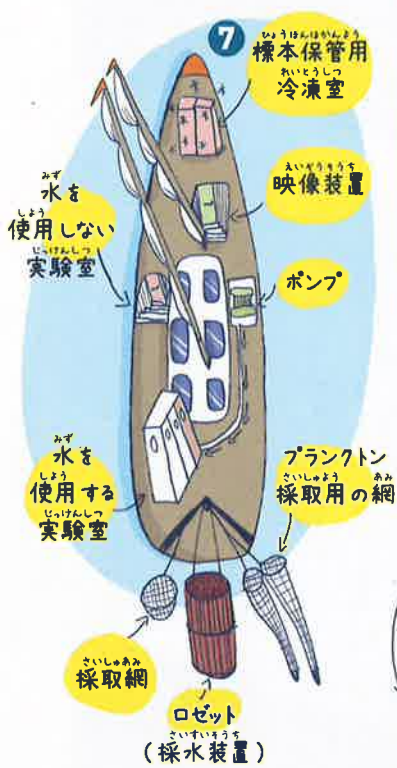
タラ号はこの航路をなぜ選んだの？
 航路は次の3つの点を考慮して決定されました。

- 科学調査をする場所であること。
- 北半球と南半球、それぞれの季節。
- タラ号は帆船なので、主な風向き。

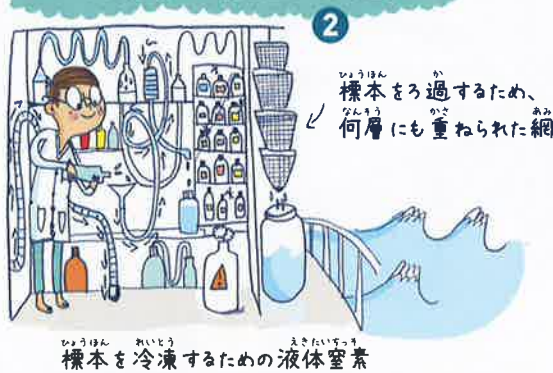
いどうじっけんしつ まさしく移動実験室

タラ号海洋プロジェクトのため、タラ号は造船所で4ヶ月に渡って準備を行いました。水を使用する実験室はデッキの下に配置されました。船室の1つは、水を使用しない室内実験室に改装されました。写真やビデオは小さな四角いテーブルに設置されました。プランクトン用のロゼット(採水装置)と網を水深2000メートルまで潜らせることができる強力な巻上げ機が設置されました。

タラ号の見取り図



水を使用する実験室: ろ過装置



水を使用しない実験室: 生物観察室



1- ポンプは水中の生き物をつぶしてしまふことなく水を集めることができます。
2- 海水は網を通り、生物は大きさによって分類されます。

3- ロゼット(採水装置)は、円形に配置された瓶の装置です。瓶は、様々な深さで閉じて海水を汲むことができます。

4- プランクトン用の網は、虫とり網のようにプランクトンを捕まえることができます。

5- 水を使わない実験室では、新しい種類のプランクトンを発見して分類するための装置が揃っています。例えば、現在200,000の原生生物(1つの細胞からなる生物)が知られていますが、実は何十億もいると考えられています! この実験室のとて高度な装置によって、もっと驚くような生物たちの形や色が観察できるのです。

6- 精度の高い写真やビデオの映像では、プランクトンは星のようで、ときどきショーをして私たちを楽しませてくれます! プランクトンが踊ったり、けんかしたり、お互いを食べたり...

7- 船の前方に冷凍室が2つあります。船にとっての宝箱です。なぜなら標本はタラ号プロジェクトの宝物だからです。

せいぶつ かがくちようさ こうもく
生物と科学調査の項目

せいぶつがくしゆ
・生物学者・
 せいぶつ けんきゆう
 生物を研究します。



さまざま しゆ せいぶつ
様々な種の生物を
 けんきゆう
 研究します。

げんきゆうしゆ
・ゲノム研究者※



おほい
ミクロの大きさの
 せいぶつ
生物に含まれている
 じようほう
情報を研究します。

くしき
組織



えいどうぎじゆつしゆ
・映像技術者・



おほい
ミクロの大きさの生物の
 しやしん
写真を撮ることで種類を
 けつべつ
区別していきます。

うみがくしゆ
・海洋学者・
 うみ
海の物理的、化学的な
 とうごう
特徴を研究します。



せいぶつ さいしゆ ばしょ
生物が採取された場所を
 けんきゆう
研究します。

※ゲノムはそれぞれの生物の遺伝物質をまとめたもの、つまり生物の身分証明書のようなものことです。

ごう かかん タラ号での7日間

ごようレ 土曜日※



タラ号が寄港地を出発します。お別れの時です。

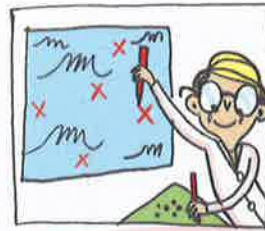


食堂でみんな揃っての食事など、またタラ号での生活がはじまります。寄港地を後にした直後です。みんな少し静かです。

にちようレ 日曜日



タラ号は標本抽出の場所に向かって進みます。風が十分なときは、タラ号は風のかで進みます。



そして科学者たちは衛星地図を使って観測拠点の準備をします。記者たちは、パソコンやインターネットで映像を編集します。乗組員たちはよく大工仕事をしています。



げつようレ 月曜日



タラ号は、プランクトン調査のために選ばれた場所に停泊します。



ロゼット(採水装置)を海中に入れて、海水を汲み、水を使う実験室でろ過します。それからプランクトンを採取するための網を海中に入れます。



朝早くから、夜遅くまで作業は続きます。日が暮れると、プランクトンは海の上の方に上がってきて、光を放ちます。

※タラ号での一週間は土曜日に始まります。

火曜日



ときどき、風が弱いときはエンジンを使います。

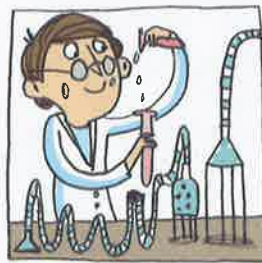


整備士長は、350馬力の大きな機械の手入れをします。



夜は、他の船とぶつからないように見張り番をしなくてはなりません。

水曜日



タラ号は再び別の調査場所に到着しました。調査場所での調査は、科学的な観点で厳密に同じように行われなければなりません。

木曜日



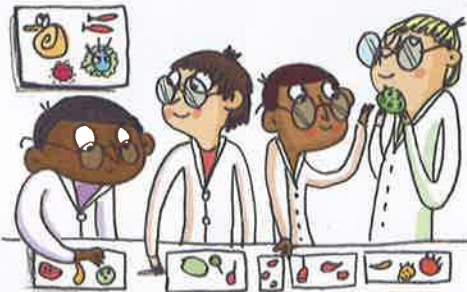
タラ号が寄港地に到着しました。タラ号の事務責任者のオリヴィエが地上で船を迎えます。

午後のはじめ、取材班がタラ号にやってきます。そしてその国にあるフランス大使館の人や、フランス大使が来ることもあります。



乗組員も船を降りて、その国を少し観光します。

金曜日



タラ号の科学者たちは現地の科学者たちに会います。

金曜日の午後、小学生たちがタラ号を訪れます。「タラ号海洋プロジェクト」の映画を上映します。



このようにタラ号ではあまり休む時間はないのです。

j'aime les enfants!

j'aime la mer!

agnès b.

こども だいす
子供大好き!

うみ だいす
海大好き!

アニエスベー

Naël sur Tara en décembre 2009 - Photographie : www.ronangladu.com

とお くに
通る国:

きこう
寄港:

せかいじゅう めぐ
世界中を周る

50

かこく
カ国

68

かしよ
ヶ所

150 000

こうかい
kmの航海

Journal gratuit publié par Tara Oceans. Fonds de dotation Tara 12 rue Dieu 75010 Paris - +33 1 53 38 44 89 - contact@taraexpeditions.org.
Photographies : Tara Oceans. Direction artistique et maquette : www.be-poles.com Représentant légal et directeur de la publication : Étienne Bourgeois.
Coordination : Eloïse Fontaine, Rachel Moreau, Magali Puisieux, Marion Lauters et Sandra Da Costa. Illustrations : Christine Roussey, Benjamin Flao (page 6)
Sébastien Beauvilain, Marine Ricardou et Romain Laprade. Coordination scientifique : Eric Karsenti. Imprimeur : DDBZ, Bidart France. Date de parution et de dépôt légal : 2 mai 2010.